

## 平成 22 年度

(社) 日本技術士会東北支部 応用理学部会

### 定 期 総 会 資 料

日時：平成 22 年 5 月 14 日（金） 14 時 00 分～17 時 00 分

場所：(株)ユアテック 3 階 A 会議室

仙台市宮城野区榴岡四丁目 1-1

### 総会次第

#### 1. 総会議事 14 時 00 分～14 時 50 分

##### (1) 開会宣言

(議長選出)

##### (2) 議事

①平成 21 年度活動報告

②平成 21 年度会計報告

③監査報告

④平成 22 年度活動計画 (案)

⑤平成 22 年度会計予算 (案)

##### (3) 閉会宣言

#### 2. 特別講演 15 時 00 分～17 時 00 分

演 題：「表層土壌における土壌汚染物質の動態」

講演者： 東北大学大学院環境科学研究科 教授 井上千弘氏

#### 3. 意見交換会 17 時 45～19 時 45 分

場所： 牛たん焼 右門 (愛宕上杉通、東邦銀行向い)

会費： 4,000 円 (予定)

## 1. 平成 21 年度活動報告

### 1.1 部会会員数

東北支部応用理学部会 正会員 77 名 (平成 22 年 3 月現在)

### 1.2 活動報告

#### (1) 平成 21 年度総会

日時：平成 21 年 5 月 14 日 (木) 14 時 30 分～17 時 00 分

場所：戦災復興記念館 4 階 第 1 会議室  
仙台市青葉区大町二丁目 12 番 1 号

参加者：41 名 (委任状 23 名含む, 会員総数 72 名)

#### 特別講演

演題 : プレートテクトニクスと日本列島

講演者 : 静岡大学名誉教授 新妻信明氏

参加者 : 50 名以上

意見交換会 : 会費 4,000 円、レストラン トップ 18 名参加

#### (2) 見学会

日時：平成 21 年 7 月 17 日 (金)～18 日 (土)

見学場所：①矢引地区切土のり面 (地すべり性変状) と温海トンネル鶴岡側  
(日沿道)

②肘折地すべり

共催：山形県技術士会

参加者：9 名、参加費 15,000 円

#### (3) 技術士全国大会：

日時：平成 21 年 10 月 15 日 (木)～16 日 (金)

場所：仙台国際センター

1) 15 日 (木) 全国防災連絡会議 三浦部会長

2) 16 日 (金) 第 3 分科会「地震に備え地域社会の安全向上に貢献する」  
守屋副部会長

#### (4) 平成 21 年度研修会

「リモートセンシング技術の森林分野における活用の経緯と今後の展開」

講師 : 大萱直花 (おおがや なおか) 氏

(技術士 森林部門 (森林環境))

日時：平成 21 年 11 月 13 日 (金) 15:00～17:00

場所：株式会社ユアテック 3F 会議室

会費：会員・非会員 1,000 円 参加者 31 名 意見交換会 10 名

(5) 技術サロン：4 回開催・・・宮城県婦人会館，会費 1000 円/回

・第 1 回 平成 21 年 6 月 12 日（金）

1) 岩手・宮城内陸地震の斜面崩壊の型と地質 今野隆彦氏  
((有)ジオプランニング)

2) 日本地球惑星科学連合 2008 年大会のトピック 滝田良基氏  
(株ニュージェック)

・第 2 回 平成 21 年 8 月 21 日（金）

1) 糸魚川紀行～フォッサマグナとヒスイを訪ねて～ 三浦 隆氏  
(株パスコ)

2) 降雨装置を用いたまさ土における斜面崩壊実験 黒墨秀行氏  
(株総合土木コンサルタンツ)

・第 3 回 平成 21 年 10 月 9 日（金）

1) アルプス紀行～山岳氷河の実態～ 中里俊行氏  
((有) ジオテクノ中里産業)

2) 地震防災活動のかかわりと課題 守屋資郎氏 (株パスコ)

・第 4 回 平成 21 年 12 月 11 日（金）

1) ジオ情報リソースを利用する新ビジネスの創出 亀和田俊一氏  
(株ジオネット・オンライン)

2) 「報告 理科教育支援について」 守屋資郎氏 (株パスコ、副部会長)

(6) 地震防災 WG 活動

・ 出前講座

1) 片平地区安全安心まちづくり講座：平成 21 年 6 月 27 日（土）  
片平市民センター

2) 富沢中子供会マップづくり支援：平成 21 年 6 月 28 日（日）  
同予察踏査 平成 21 年 6 月 6 日（土）

3) パンフレット「地震から身を守る～マイマップのすすめ～」の印刷配布（宮城県技術士会と連携）

(7) 役員会

9 回開催：平成 21 年 4 月 10 日（金）、5 月 14 日（木）、6 月 12 日（金），  
8 月 21 日（金）9 月 11 日（金），10 月 9 日（金），11 月 13 日  
（金），12 月 11 日（金），2 月 19 日（金）

(太字は技術サロン開催日))

- (8) 東北福祉大災害ボランティアセンター 地震・津波に強いまちづく実行委員会委員として参加 (守屋副部会長)

7月、12月、3月

ほかに、子どもの減災力向上ワーキンググループに参加

- (9) 応用理学部会専用 HP の開設と維持管理

独自ドメインの HP (<http://pe-tohokuas.org/>) を開設し、移行完了。

## 2. 平成 21 年度会計報告

応用理学部会 平成21年度 会計決算(案)					
				2010/3/31現在	
	決算	H21年度予算	対比		
総収入	643,177	617,945	25,232		
総支出	609,032	546,000	63,032		
繰越金	34,145	71,945	△ 37,800		
<b>【収入の部】</b>					
科目	決算	H21年度予算	対比	摘 要	
H21年度繰越金	127,945	127,945	0		
支部交付金	70,000	70,000	0		
小計	197,945	197,945	0		
事業収入	総会	72,000	40,000	32,000	交流会費18名×4000円
	見学会	135,000	40,000	95,000	参加費
	技術サロン	39,000	40,000	△ 1,000	4回開催、会費1000円
	研修会	67,000	90,000	△ 23,000	参加費、交流会費
	地震防災WG活動	7,200	10,000	△ 2,800	出前講座謝礼ほか
	パンフレット印刷費	105,000	100,000	5,000	宮城県技術士会より10.5万円
	パンフレット頒布金	0	100,000	△ 100,000	
雑収入	20,032	0	20,032		
小計	445,232	420,000	25,232		
総収入	643,177	617,945	25,232		
<b>【支出の部】</b>					
科目	決算	H21年度予算	対比	摘 要	
事業費	総会	117,985	80,000	37,985	会場費、講師謝礼、交流会費ほか
	見学会	120,615	35,000	85,615	謝礼、資料代ほか
	技術サロン	73,900	80,000	△ 6,100	4回予定、会場費ほか
	研修会	42,000	74,000	△ 32,000	謝礼、会場費、交流会費ほか
	地震防災WG活動	2,142	10,000	△ 7,858	交通費ほか
	パンフレット印刷費	210,000	200,000	10,000	
小計	566,642	479,000	87,642		
管理費	会議費	13,200	20,000	△ 6,800	幹事会会場費
	通信費	29,190	35,000	△ 5,810	HP管理費(初期費用含む)
	事務雑費	0	2,000	△ 2,000	
	予備費	0	10,000	△ 10,000	
小計	42,390	67,000	△ 24,610		
総支出	609,032	546,000	63,032		

注) 対比は予算を基準として示した。

対比 = (決算) - (予算) マイナスは△で表示

### 3. 監査報告

## 監 査 報 告 書

平成 21 年度の事業および会計を、帳簿ならびに証拠書類により監査した結果、相違なく、適正に処理されていることを確認しました。

平成 22 月 4 月 8 日

(社) 日本技術士会東北支部 応用理学部会

監事 佐藤一夫 

#### 4 . 平成 22 年度 活動計画 (案)

①総会・特別講演：平成 22 年 5 月 14 日(金)14 時 00 分～17 時 00 分

総会 14 時 00 分～14 時 50 分

特別講演 15 時 00 分～17 時 00 分

意見交換会 17 時 45 分～19 時 45 分

特別講演：「表層土壌における土壌汚染物質の動態」

東北大学大学院環境科学研究科 教授 井上千弘氏

資料代：1,000 円

意見交換会：会費 4,000 円

②平成 22 年度見学会

テーマ：(仮) 岩手宮城内陸地震のその後～発生メカニズムと災害復旧～

日時：平成 22 年 7 月予定

見学場所：岩手県南部、栗原市

③研修会：平成 22 年 11 月

テーマ：(仮) 公共の科学技術発展のための技術者の役割

共催：NPO 法人 防災・減災サポートセンター

④役員会

平成 22 年 4 月 23 日(金)、5 月 14 日(金)、**6 月 11 日(金)**、  
**8 月 20 日(金)**、9 月 10 日(金)、**10 月 8 日(金)**、11 月 12  
日(金)、**12 月 10 日(金)**、2 月 18 日(金)

(太字は技術サロン開催日)

⑤地震防災 WG

・出前講座

・パンフレット「地震から身を守る～マイマップのすすめ～」の印刷配布(宮  
城県技術士会と連携)

⑥東北福祉大とのパートナーシップ協約にもとづく活動

防災ボランティアセンター主催

「地震・津波につよいまちづくり実行委員会活動」：委員 守屋副部長

⑦ 技術サロン：4 回開催・・・中央市民センター

(宮城野区榴岡 4 丁目 1 番 8 号 TEL022-295-0403)

6 月～12 月隔月第 2 金曜日(8 月は第 3);18 時～20 時 30 分  
会費 1000 円/回

6/11, 8/20/, 10/8, 12/10 実施予定

## 5. 平成22年度 会計予算 (案)

応用理学部会 平成22年度 会計予算(案)					
	H22予算	H21決算	対比		
総収入	509,177	643,177	△ 134,000		
総支出	469,177	609,032	△ 139,855		
繰越金	40,000	34,145	5,855		
<b>【収入の部】</b>					
科目	H22予算	H21決算	対比	摘 要	
H21年度繰越金	34,145	127,945	△ 93,800		
支部交付金	100,000	70,000	30,000		
小計	134,145	197,945	△ 63,800		
事業収入	総会	40,000	72,000	△ 32,000	交流会費10名×4000円
	見学会	40,000	135,000	△ 95,000	参加費20名×2000円
	技術サロン	40,000	19,000	21,000	4回開催、会費1000円
	研修会	70,000	78,000	△ 8,000	参加費、交流会費
	地震防災WG活動	10,000	16,200	△ 6,200	出前講座謝礼ほか
	パンフレット印刷費	105,000	105,000	0	宮城県技術士会より10.5万円
雑収入	20,032	20,032	0		
小計	375,032	445,232	△ 70,200		
総収入	509,177	643,177	△ 134,000		
<b>【支出の部】</b>					
科目	H22予算	H21決算	対比	摘 要	
事業費	総会	70,000	117,985	△ 47,985	会場費、講師謝礼、交流会費ほか
	見学会	20,000	120,615	△ 100,615	謝礼、資料代ほか
	技術サロン	60,000	73,900	△ 13,900	4回予定、会場費ほか
	研修会	42,000	42,000	0	謝礼、会場費、交流会費ほか
	地震防災WG活動	2,000	2,142	△ 142	交通費ほか
	パンフレット印刷費	210,000	210,000	0	
	小計	404,000	566,642	△ 162,642	
管理費	会議費	20,000	13,200	6,800	幹事会会場費
	通信費	25,000	29,190	△ 4,190	HP管理費ほか
	事務雑費	5,000	0	5,000	
	予備費	15,177	0	15,177	
小計	65,177	42,390	22,787		
総支出	469,177	609,032	△ 139,855		

注) 対比は前年決算を基準として示した。

対比 = (H22 予算) - (H21 決算)      マイナスは△で表示

以上



## (社) 日本技術士会 東北支部 応用理学部会 規約

平成 15 年 4 月 11 日制定

平成 17 年 6 月 10 日改正

平成 18 年 5 月 12 日改正

平成 20 年 5 月 8 日改正

### 第 1 条 名 称

本部会は「社団法人 日本技術士会(以下、技術士会)東北支部 応用理学部会」(略称「東北応用理学部会」)と称する。

### 第 2 条 目 的

本部会は、

- 1) 専門技術の観点から技術士会に協力する。
- 2) 技術士の職業倫理の確立と地位の向上を図る。
- 3) 部会員の技術の向上を図る。
- 4) 部会員相互の親睦を図る。
- 5) 専門技術を通し地域社会へ貢献する。

こと等を目的とする。

### 第 3 条 部 会 員

部会は、応用理学部門に合格した技術士会会員および準会員をもって構成する。

### 第 4 条 役 員

本部会は、上記目的を達成するため、次の各号に掲げる役員を置き円滑な部会の運営にあたる。

部会長	1 名
副部会長	2 名
幹事	若干名
監事	1 名

本部会は顧問を置くことができる。顧問は、本部会活動の活発化および円滑な運営を図るため、第 7 条で規定する会議に出席し、意見を述べることができる。

役員任期は 1 期 2 年とし、再任を妨げない。ただし、部会活動活性化のため、部会長は最長 2 期を限度とする。

### 第 5 条 役員を選任

1. 部会長は、部会総会において選任し、支部長に報告する。
2. 幹事は、部会長が部会員の中から委嘱し、総会に報告する。
3. 顧問は、役員会が推薦し、総会に報告する。
4. 監事は部会長が推薦し、総会で承認を得る。

### 第 6 条 役員の仕事

1. 部会長は、部会を代表し、全般を総括し、必要に応じて日本技術士会東北支部の役員会で部会に関する意見を述べることができる。
2. 副部会長は、部会長を補佐し部会長に事故があるときは、その仕事を代行する。
3. 幹事は、部会の年次計画案を作成、実行、その他事務事項を担当する(部会員の連絡事項を含む。)

4. 監事は、支部の経理状況及び業務の執行の状況を監査する。更に、役員会に出席して職務に対する意見を述べることができる。

## 第7条 会議の種類

本部会の会議は、総会、役員会とする。

## 第8条 総会

1. 総会は定期総会及び臨時総会とし、部会長が召集する。
2. 定期総会は、原則として支部総会前に開催する。
3. 臨時総会は、次の各号に該当する場合に開催する。
  - ①役員会において必要と認めた場合
  - ②部会員の5分の1以上から会議の目的たる事項を示し請求があった場合
  - ③前項の規定により臨時総会を開く請求があったときは、部会長は、速やかに総会を招集しなければならない。
4. 総会の議長は部会長が務める。
5. 定時総会及び臨時総会は部会員をもって構成し、委任状等を含めて2分の1以上の出席がなければ開くことができない。

## 第9条 総会の議事

1. 総会においては、この規約に規定するものの他、次の各号に示す事項を議決する。
  - ①前年度活動報告及び決算の承認に関する事項
  - ②年次活動計画及び予算の決定に関する事項
  - ③役員会において総会に付議する必要があると認めた事項
2. 総会の議事は、出席者の過半数をもって定める。

## 第10条 規約の変更

本規約の変更は、役員会の3分の2以上の同意を以って発議し、総会において出席した部会員の3分の2以上の同意を以って成立する。

## 第11条 役員会

1. 役員会は構成員の2分の1以上の出席を以って成立し、次の事項を審議する。
2. 役員会の議長は部会長が努める。ただし、都合で部会長の指名により一任された者が会議を推進することができる。
3. 役員会の内容は、その都度議事録を作成する。
4. 役員会に付議する事項は、部会の運営に関することを原則とする。

## 第12条 部会活動

部会活動は、第2条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。

1. 本部会並びに他の部会との連携を図り、共通の課題に対する、討議、意見の交換及び行事の共催
2. 国、地方公共団体、民間等の国内の組織団体との技術交流並びに海外の科学技術関係の技術者との交流
3. 科学技術に関する調査並びに文献及び資料の収集
4. 科学技術に関する研修、講演会、見学会等の開催

- 5・専門技術により地域に貢献するため地方公共団体等からの相談・依頼があった場合業務を受託し行うことができる。
- 6．科学技術に関する情報の交換、新技術の修得及び意見交換等を目的とする行事の開催
- 7．部会員相互の親睦を図るための行事の開催
- 8．前各号に掲げるものの他、本部会の目的を達成するために必要な活動

#### **第13条 会費等**

年会費は当面の間、無料とし、各行事毎に参加費を徴収する。

#### **第14条 事業年度**

本部会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日とする。